

個人の目標信託に及ぼす時間的展望と自伝的記憶の影響

石野 陽子*・清水 寛之**

Yoko ISHINO and Hiroyuki SHIMIZU

The Influences of Future Time Perspectives and Autobiographical Memory
on Entrustment of Dreams

ABSTRACT

People tend to entrust their own dreams, hopes, wishes or aspirations associated with past positive or negative experiences, to others. These “others” may include children or people in younger generations. To date, psychological studies have investigated several developmental characteristics in relation to time perspectives. However, few studies have focused on the influence of personal experiences in perceiving of images of future perspectives and autobiographical memory on abandonment or entrustment of dreams. The present study examined the influence, based on the data of a total of 309 undergraduates for two questionnaires including open-ended questions and rating scales. The questionnaires examined, (a) the kinds of feelings and reasons that occurred at the time of abandonment and entrustment of dreams, (b) the personal experiences prompting the abandonment and entrustment recalled, and (c) how current images of future perspectives conveyed sentiments that dreams should be entrusted to someone else. Statistical analyses of the data revealed that specific aspects of time perspectives and autobiographical memory were strongly related to participants’ feeling of entrusting dreams to the others.

【keywords : entrustment of dreams, autobiographical memory, time perspective】

問題と目的

個人の夢や希望、願望、抱負といったものはその人生においてきわめて重要な役割を果たしていると考えられる。そうした夢や希望などはつねに叶えられるというわけではない。長年にわたって夢や目標の実現に努力しても、ついに果たせないと判断し、諦めざるを得ないという場合もあるだろう。しかしながら、夢が叶わない、目標が実現できないと判断したとはいえ、すぐさま完全にそれらを諦めてしまうとは限らない。特にそれらの夢や目標が個人にとって非常に重要な意味をもち、その個人の生活や人生そのものになくしてはならないと感じている事柄であればあるほど、容易に諦めてしまうことはできないであろう。したがって、実現しないことが予想される状況にあっても、ある者は諦めることなく、または、諦めきれずに努力を続けるかもしれない。その一方で、別のある者は、自分では実現に向けて具体的な行動は続けず、その代わりにほかの誰かにその夢や目標を託すかもしれない。

本研究では、いつ、どのようにどのような相手に、自分の夢や希望、願望、目標などを託すのかについて、時間的展望と自伝的記憶の観点から検討する。ここでの時間的展望 (time perspective) とは、「ある一定の時点における個人の心理的過去と未来についての見解の総体」(Levin, 1951/1979) のことである。自伝的記憶

(autobiographical memory) とは、過去の自己に関わる記憶のことである (佐藤・下島・越智, 2008)。

自分自身の夢を諦め、誰かに託す、という行動を時間的展望の視点から捉えることを試みるのは、とくにめずらしいことではない。Lewin (1951) の先駆的研究からこれまで、時間的展望研究は個々人の心理的過去と心理的未来の視点に立って徹底的に研究された。これらの研究は、とりわけ個人の動機づけや達成感が将来への展望に果たす心理学的役割を実証的に明らかにしようとしてきた (De Volder & Lens, 1982)。

時間的展望に関する有用な測度として、ジンバルドー時間的展望尺度 (Zimbardo Time Perspective Inventory, ZTPI) が、Zimbardo とその共同研究者によって開発された (Zimbardo & Boyd, 1999)。この尺度はさまざまな研究に広範囲に使用され (Boniwell, Osin, Linley, & Ivanchenko, 2010; Boniwell & Zimbardo, 2004; Drake, Duncan, Sutherland, Abernethy, & Henry, 2008)、日本版も開発されている (下島・佐藤・越智, 2012)。たとえば、Drake et al. (2008) は、主観的満足感や主観的幸福感は時間的展望尺度の4因子ないし5因子と非常に相関が高い (過去否定 Past Negative, 過去快楽 Past Hedonistic, 過去肯定 Past Positive, 過去運命 Past Fatalistic) が、残りの因子 (特に未来 future) とは相関していないことを示した。夢を実現するにあたり、成功から得られる幸福感や失敗が起因する欲求不満が将

* 島根大学教育学部

** 神戸学院大学人文学部

来的展望と必ずしも関連するとは限らないことを示した。したがって、本研究において夢を諦めることと時間的展望との関連を調査することは非常に興味深い。

一方、自伝的記憶には、主に自己機能 (self function)、社会的機能 (social function)、指示的機能 (directive function) の3種類の機能があるとされている (Bluck, 2003)。自己機能は、自己の連続性、一貫性、または自己の発達を意味している。また、社会的機能は、自伝的記憶が会話で個人的経験を共有することによって社会的相互作用を促進することを意味している。指示的機能とは、自伝的記憶が適切な行動を導く上で問題解決のための資料となることを意味している。以上のことから、夢を諦め、誰かに託すということについては、自伝的記憶が託す相手の選択に影響を及ぼすのではないかと考えられる。夢を託すことに最も関連した研究は、自己心理学と健康心理学、特に幸福感の領域において扱われている。一般に、目標を追求し成し遂げることは、特に悪条件のもとでは、正の感情を生起させるようである。目標を追求し達成したり、最善を尽くしたり努力をし続けたりすることによる成功の経験は、主観的幸福感、達成への動機づけ、自己効力感を高めるかもしれない (Emmons, 1986)。一方、達成不可能な夢から開放されることができた高齢者はうつ状態が緩解することは広く知られている (e.g., Boerner, 2004)。具体的には、目標からの逸脱に関する研究は人生において非常に有益であり、また、目標からの逸脱と新たな目標設定はともに個人の幸福感との間で高い正の相関を示すことも報告されている (Dunne, Wrosch, & Miller, 2011; Wrosch, Scheier, Carver, & Schulz, 2003)。

人は夢を諦めると決断できたとき、それを達成するという重圧から解放される。つまり、目標達成のように、夢を実現するための努力は個人の幸福感やwell-beingに正の影響を及ぼしている。それと同時に、実現可能性の低い夢を諦めることは、目標から離れることと新しい目標を再設定することをもたらすため、夢を実現に向かわせる際に起こる幸福感やwell-beingへの正の感情や情動を生起させるかもしれない。しかし、正の感情をもたらすだけではなく、たとえば誰かが自分の夢や目標に似たような事柄を実現したとすれば、嫉妬や妬みのような負の感情・情動を生起するかもしれない。ただし、積極的能動的に誰かへ自分自身の夢を託すことで、もしその人が夢の実現のために努力したり達成に近づく様子を見聞きし、さらに直接励ましたり支援したりできるならば、正の感情・情動をもたらすことが考えられる。

したがって、夢を諦めるということと、その夢を誰かに託す、ということに関する心理的過程を調査する必要がある。本研究においては、具体的に次の二つの目的を設定する。

- 1) 本研究で実施する調査において使用する尺度の質問項目群ごとの因子構造を明らかにする。
- 2) 夢を誰に託すか、ということについて、個人の時間的展望と自伝的記憶がどのように関連するのかを調査する。

方 法

- 1) 調査実施日 調査は、2011年4月に実施した。
- 2) 調査協力者 松江市と神戸市の大学生309名 (男性176名、女性128名、不明5名) に対して調査が行なわれた。調査協力者の平均年齢は19.71歳、年齢範囲は19–24歳 ($SD=.81$) であった。
- 3) 調査方法 質問紙による調査が実施された。大学の講義終了後、調査の内容を説明し、協力に同意した者にその場で回答を求め回収した。なお、調査協力者の身体的・心理的疲労に配慮して全体を二つに分けて調査が実施されており、後半部分は3週間後、授業終了後に配布され、回答した全員分を回収した。前半には20–30分、後半には15–20分が費やされた。
- 4) 調査内容 本研究に先立って、自由記述による予備調査を行なった (石野・清水, 2011; 清水・石野, 2011)。調査した内容は以下の4点であった。

(a) 夢や希望を諦めた経験があるか、もしあれば、それはどのような夢や希望で、なぜ諦めたのか、(b) 夢や希望を諦めた後、どのような気持ちになったか、(c) 夢や希望を諦めた後、それを誰かに託したか、託したならば、その相手とはどのような特徴をもつ人か、(d) 夢や希望を諦めたものの誰かには託さなかった場合、どのような特徴をもつ人であれば託すということを行なったであろうか。

これらの質問への回答を元に質問項目が作成された。

本調査では、表紙で性別、年齢、学年、暗証番号を記入するよう求め、さらに以下の質問への回答を求めた。

- (1) 特定の夢を諦めたときの自伝的記憶の特徴 自由記述により、以下の4点について質問がなされた。(a) 過去に夢や希望、目標があったか、(b) 上記 (a) で挙げた夢は諦めたか、(c) その出来事はいつのことか、(d) その出来事はどこで起こったか。さらに、(e) 上記 (a)–(d) で回答された出来事に関する記憶の鮮明さを測定するために、MCQ日本語版 (Takahashi & Shimizu, 2007) の38項目を使用した。それぞれの項目について7件法で回答させた。記憶が鮮明であるほど得点が高い。
- (2) 夢を諦めた理由 どうしてその夢を諦めたのか、という理由について、予備調査を基に22項目を作成した。各項目について、それがどの程度自分のことに当てはまるかを4件法で回答させた。得点が高いほど、理由が当てはまることを示す。
- (3) 諦めたときの情動 特定の夢を諦めたときの情動について、予備調査をもとに16項目を作成した。各項目について、それぞれの情動がどの程度当てはまるかを4件法で回答させた。得点が高いほど、それぞれの情動をよく生起させていることを示す。
- (4) 託す相手の特徴 特定の夢を託す相手の特徴について、以下4点について質問した。(a) 自分自身の夢が実現できないと感じたとき、その夢を誰かに託したことがあるか (はい–いいえの2件法で回答させた)、(b) いつ、その夢を託したか (または、託さないと決めたか)

(自由記述により回答させた)、(c) あなたと託す相手は、どのような関係であるか ((a) において、託したことがあると回答した者にのみ、親、友人、などの選択肢を用意し回答させた)、(d) 託す相手はどのような特徴をもつ者か (性格や特性などを表す25項目それぞれについて、全くそのとおりだ (4点) - 全く当てはまらない (1点) までの4件法で答えさせた)。

(5) 時間的展望に関する特性 個人が時間的展望に対してどのような態度を持っているのか、ZTPI日本語版 (下島・佐藤・越智, 2012) の全56項目を用いて5件法で質問した。得点が高いほど、それぞれの項目について敏感であることを示している。

結 果

(1) 特定の夢を諦めたときの自伝的記憶の鮮明さ 特定の夢を諦めたときの自伝的記憶の特徴の中で、特に鮮明さに注目した。具体的には、MCQ日本語版への回答に因子分析を行なった。その結果、8因子が確認された (Table 1)。その8因子はそれぞれ、出来事の明確性 (*Clarity*, 8項目; $M = 4.72$, $SD = 1.18$, $\alpha = .89$)、長期的時間情報 (*Long-term time information*, 4項目; $M = 5.29$, $SD = 1.53$, $\alpha = .87$)、感情性 (*Affect*, 4項目; $M = 5.11$, $SD = 1.21$, $\alpha = .80$)、感覚的経験 (*Sensory experiences*, 4項目; $M = 2.30$, $SD = 1.07$, $\alpha = .71$)、短期的時間情報 (*Short-term time information*, 2項目; $M = 2.61$, $SD = 1.67$, $\alpha = .81$)、全体的印象 (*Overall impression*, 2項目; $M = 2.40$, $SD = 1.33$, $\alpha = .78$)、回想的想起 (*Retrospective recollection*, 2項目; $M = 5.15$, $SD = 1.56$, $\alpha = .70$)、奇異性 (*Bizarreness*, 2項目; $M = 5.44$, $SD = 1.20$, $\alpha = .39$) と命名された。この結果は先行研究に類似した結果となった (Takahashi & Shimizu, 2007; Shimizu, Anderson, & Takahashi, 2012)。Takahashi & Shimizu (2007) と本結果と異なる点は、(a) 空間情報因子 (*Spatial information*) と前後の出来事因子 (*Events before and after*) が本結果では抽出されなかったこと、(b) 時間情報因子 (*Time information*) が、長期的時間情報因子と短期的時間情報因子に分けられたこと、(c) 本結果から得られた感情性因子は、先行研究の回想的想起因子から新たに抽出されたことであった。

(2) 夢を諦めた理由 夢を諦めた理由について因子分析を行なった結果、6因子が抽出された (Table 2)。その6因子はそれぞれ、能力のなさの認識 (*Awareness of inability*, 4項目; $M = 2.40$, $SD = .89$, $\alpha = .80$)、魅力の減少 (*Decrease of fascination*, 3項目; $M = 2.06$, $SD = .89$, $\alpha = .42$)、負の環境 (*Negative environment*, 4項目; $M = 1.98$, $SD = .76$, $\alpha = .40$)、他者からの助言 (*Advice from others*, 4項目; $M = 1.66$, $SD = .59$, $\alpha = .59$)、失敗の予測 (*Predicted failure*, 2項目; $M = 1.84$, $SD = .86$, $\alpha = .32$)、想定外の状況 (*Unexpected situation*, 2項目; $M = 1.35$, $SD = .64$, $\alpha = .20$) と命名された。

(3) 諦めたときの情動 特定の夢を諦めたときの情動について因子分析を行なった結果、3因子が抽出され

た (Table 3)。3因子はそれぞれ、負の感情 (*Negative feeling*, 6項目; $M = 2.36$, $SD = .79$, $\alpha = .85$)、正の感情 (*Positive feeling*, 7項目; $M = 1.80$, $SD = .55$, $\alpha = .78$)、内省 (*Reflection*, 3項目; $M = 2.43$, $SD = .85$, $\alpha = .76$) と命名された。

(4) 託す相手の特徴 託す相手の特徴について因子分析を行なった結果、3因子が抽出された (Table 4)。3因子はそれぞれ、協調性 (*Cooperation*, 6項目; $M = 3.15$, $SD = .65$, $\alpha = .82$)、有能さ (*Talent*, 6項目; $M = 3.23$, $SD = .60$, $\alpha = .79$)、社会性のなさ (*Anti-sociability*, 4項目; $M = 1.79$, $SD = .59$, $\alpha = .68$) と命名された。

(5) 時間的展望に関する特性 時間的展望への態度について、確認的因子分析を行なった (Table 5)。その結果、先行研究 (Zimbardo & Boyd, 1999; 下島ら, 2012) と同様に5因子を抽出した。5因子はそれぞれ、現在快楽 (*Present Hedonistic*, 8項目; $M = 3.61$, $SD = .58$, $\alpha = .77$)、過去否定 (*Past Negative*, 4項目; $M = 3.62$, $SD = .86$, $\alpha = .80$)、未来 (*Future*, 5項目; $M = 2.62$, $SD = .67$, $\alpha = .90$)、過去肯定 (*Past Positive*, 4項目; $M = 3.46$, $SD = .74$, $\alpha = .71$)、現在運命 (*Present Fatalistic*, 5項目; $M = 3.09$, $SD = .65$, $\alpha = .62$) と命名された。

(6) 夢を諦めることと託すことの因果関係モデル 上記 (1) - (5) における因子分析の結果に基づいて、構造方程式モデリングを用いて、夢を託す相手を選択するには何が関連しているかという因果関係を捉えるべく共分散構造分析を行なった。その結果をFigure 1に示す。適合度指標は、 $\chi^2(266) = 612.67$ ($p < .001$)、GFI = .86、AGFI = .83、RMSEA = .065、AIC = 730.67、となり、一定の適合度を示した。

パス係数が中程度の関係を示していることから、自伝的記憶の構成概念は諦めたときの情動と諦めた理由に影響を及ぼしていることが明らかとなった (諦めたときの情動, $\beta = .44$, $p < .01$; 諦めた理由, $\beta = -.24$, $p < .01$)。なかでも出来事の明確性、長期的時間情報、感情性が夢を諦めたときの情動の生起に影響を及ぼしている (出来事の明確性, $\beta = .83$, $p < .01$; 長期的時間情報, $\beta = .76$, $p < .01$; 感情性, $\beta = .72$, $p < .01$)。しかし、自伝的記憶の構成概念は、託す相手の選択に影響を及ぼしていなかった ($\beta = .00$, $p > .10$)。一方、時間的展望の構成概念は、託す相手の選択へ影響を与えることが明らかとなった ($\beta = .24$, $p < .01$)。とりわけ過去肯定と現在運命、過去否定が夢を託す相手の選択に影響を与えることが示された (過去肯定; $\beta = .67$, $p < .01$; 現在運命; $\beta = .63$, $p < .01$; 過去否定; $\beta = .60$, $p < .01$)。また、諦めたときの情動にわずかに影響を及ぼしており ($\beta = .15$, $p < .05$)、諦めた理由に影響を及ぼしていなかった ($\beta = .04$, $p > .10$)。

全体として、このモデルは、自伝的記憶は諦めた理由よりも諦めたときの情動に影響を及ぼし、時間的展望は諦めた理由には全く影響を及ぼしておらず、わずかに諦めた時の情動に影響を及ぼしていたことを示している。また、夢を託す相手への選択には、自伝的記憶は影響を及ぼしておらず、時間的展望が影響を及ぼしていた。

Table 1 Factor structure of MCQ relating the memories of personal events prompting abandonment of dreams

Factor: Abridged item	Factors								h^2	Mean	SD
	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8			
F1: Clarity ($\alpha=.89$)											
09 Event detailed	.99	.01	-.07	-.05	-.07	-.06	.01	-.24	.75	4.39	1.89
08 Vividness	.90	-.09	.07	-.03	.01	-.04	.04	-.10	.76	4.85	1.73
01 Clarity	.73	.13	.00	.00	-.01	.04	.00	.04	.67	5.25	1.73
02 Color	.52	-.08	.00	.14	.06	-.04	.01	.18	.46	5.09	1.68
03 Visual detail	.51	.01	.13	.23	.05	.04	-.02	-.05	.57	3.92	1.88
10 Order of events	.50	.07	-.05	-.03	-.01	.05	-.02	.16	.32	4.50	1.91
36 Doubt/certainty	.48	.08	.20	-.17	.08	.15	-.01	.20	.57	5.00	1.48
15 Objects (spatial)	.36	.18	-.01	.08	-.03	-.10	-.08	.28	.47	4.62	1.86
F2: Long-term time information ($\alpha=.87$)											
19 Season	-.10	.94	.01	.03	.07	.00	.05	-.06	.84	4.92	2.33
18 Year	-.01	.88	.02	-.02	-.03	.03	.04	-.02	.75	5.45	1.99
17 Time	.16	.62	-.01	.01	.03	-.03	-.08	.01	.54	5.28	1.84
13 Location	.25	.47	-.04	.01	-.07	-.04	-.03	.18	.50	5.50	1.99
F3: Affect ($\alpha=.80$)											
31 Remembering thoughts	-.02	-.05	.96	-.02	.01	.06	-.16	.04	.74	4.89	1.8
27 Remember feeling	-.02	.20	.66	.00	-.05	-.03	.08	-.07	.61	5.32	1.77
29 Felt intense	.12	-.07	.63	.01	.02	-.07	.01	-.22	.45	5.15	1.68
32 Self-revealing	.02	.06	.44	.07	-.06	-.01	.22	.01	.40	5.10	1.71
F4: Sensory experiences ($\alpha=.71$)											
05 Smell	-.16	.02	.07	.87	-.08	.00	-.10	.04	.62	1.94	1.41
06 Touch	.12	.06	.02	.58	.06	.04	.05	-.09	.50	2.46	1.83
04 Sound	.39	-.14	-.09	.46	-.04	-.01	.05	.10	.44	3.21	2.03
07 Taste	.03	.05	-.05	.45	.09	.09	.10	-.18	.29	1.57	1.22
F5: Short-term time information ($\alpha=.81$)											
20 Day	-.05	-.03	-.03	-.01	.99	.00	.04	.02	.99	2.52	2.12
21 Hour	.10	.16	.00	.01	.57	-.06	-.07	-.06	.52	2.70	2.00
F6: Overall impression ($\alpha=.78$)											
23 Tone (\pm)	.12	.02	-.01	-.05	-.06	.94	.03	-.09	.89	2.45	1.72
28 Felt (\pm)	-.17	-.04	-.03	.16	.03	.67	-.02	.06	.52	2.36	1.59
F7: Retrospective recollection ($\alpha=.70$)											
26 Actual implications	.01	.03	.00	-.01	.00	.04	.97	.13	.98	5.27	1.92
25 Seeming implications	-.06	-.08	.35	.04	.00	-.14	.36	.09	.40	5.02	2.08
F8: Bizarreness ($\alpha=.39$)											
14 Setting	-.04	.03	-.18	-.02	-.04	-.06	.12	.49	.23	5.26	1.74
12 Realism	.09	-.08	.15	-.09	.06	.06	.07	.42	.27	5.62	1.69
	F1	.63	.66	.50	.43	-.16	.34	.38		4.72	1.18
	F2		.54	.26	.52	-.28	.28	.41		5.29	1.53
	F3			.32	.38	-.25	.47	.33		5.11	1.21
	F4				.28	-.06	.24	.08		2.30	1.07
	F5					-.19	.20	.16		2.61	1.67
	F6						-.24	-.08		2.40	1.33
	F7							.10		5.15	1.56
	F8									5.44	1.20
Eigenvalues	9.18	2.20	1.77	1.60	1.30	1.20	1.05	0.91	Total	19.21	
Eigenvalue ratio (%)	32.78	7.86	6.33	5.70	4.66	4.27	3.75	3.26	Total	68.60	

考 察

本研究は、自己の夢を誰かに託すということについて、

時間的展望と自伝的記憶の観点がどのような影響を及ぼすのかを、因子分析と構造方程式モデリングとを用いて検討した。主な結果は以下の2点であった。

Table 2 Factor structure of the reasons of abandonment of specific dreams

Factor: Abridged item	Factors						h^2	Mean	SD
	F1	F2	F3	F4	F5	F6			
F1: Awareness of inability ($\alpha=.80$)									
20 Inferiority complex (self)	.89	.01	.03	-.09	.02	-.03	0.74	2.24	1.12
11 Inferiority complex (someone)	.82	-.06	.08	.03	-.06	-.02	0.68	2.25	1.13
18 Poor aptitudes	.62	.07	-.05	.00	.13	-.13	0.43	2.66	1.12
19 Obtainment of no outcome	.51	.05	-.11	.00	-.05	.17	0.31	2.43	1.13
F2: Decrease of fascination ($\alpha=.42$)									
15 New dreams	-.03	1.03	.02	-.07	-.06	-.02	1.00	2.18	1.17
22 Other dreams	-.01	.53	.02	.02	.04	.14	0.34	1.82	1.04
14 Lost of interest	.13	.52	-.06	.15	.05	-.11	0.38	2.19	1.11
F3: Negative environment ($\alpha=.40$)									
01 Economy	-.13	.03	.72	-.01	.05	.01	0.50	1.99	1.12
13 Environmental constraints	.11	-.04	.69	-.12	-.01	-.07	0.46	2.13	1.19
02 Family members' comments	-.05	.03	.46	.28	.04	-.06	0.36	2.14	1.10
12 Hard luck	.19	-.01	.30	.12	-.15	.22	0.31	1.67	0.95
F4: Advice from others ($\alpha=.59$)									
04 Friend's comments	.02	-.03	-.09	.86	-.04	-.12	0.64	1.54	0.79
05 Teacher's comments	-.06	.01	.07	.44	.06	.08	0.25	2.00	1.11
03 Boyfriend's/girlfriend's comments	-.04	.05	.02	.43	-.07	.03	0.19	1.26	0.65
16 Self-accusation	.12	.06	-.01	.27	.10	.19	0.25	1.82	1.01
F5: Predicted failure ($\alpha=.32$)									
17 Anxiety for failure	.03	.01	.03	-.05	.99	.01	1.00	2.09	1.13
21 Keeping pride	.23	-.04	-.03	.09	.30	.10	0.26	1.58	0.91
F6: Unexpected situation ($\alpha=.20$)									
08 Sickness/injury	.04	-.02	-.11	-.02	-.03	.62	0.36	1.52	1.00
07 Death of others	-.07	.04	.05	-.01	.09	.48	0.25	1.18	0.54
	F1	.24	.29	.38	.47	.18		2.40	0.89
	F2		.07	.20	.23	.10		2.06	0.89
	F3			.37	.26	.13		1.98	0.76
	F4				.34	.18		1.66	0.59
	F5					.09		1.84	0.86
	F6							1.35	0.64
	Eigenvalues	4.36	1.90	1.60	1.36	1.25	1.05	Total	11.51
	Eigenvalue ratio (%)	22.95	9.98	8.40	7.13	6.60	5.54	Total	60.60

第1に、特定の出来事に関する個人的経験に基づく自伝的記憶は、自分自身の夢を諦めたときの情動の生起に正の影響を及ぼしていた。しかし、夢を諦める理由には負の影響を及ぼしており、夢を託す相手の選択には影響を及ぼしていなかった。

第2に、時間的展望の観点は夢を誰に託すかを考えるにあたって正の影響を及ぼしていることが示された。しかし、夢を諦めたときの情動の生起へわずかに影響を与えたが、諦めた理由には影響を及ぼさなかった。

自伝的記憶について、先行研究において夢を諦めることは自伝的記憶という機能のうち後悔や欲求不満を引き起こすということが示されている (Bluck, 2003)。夢や目標のために努力を行なうことと、夢や目標に近づくための努力を放棄することを共存させることは、矛盾をもたらし、苦悩やむなしさといった感情を生起させてしまうかもしれない。同時に、既存の夢や目標から離れ、新

しい夢や目標を再設定することが主観的幸福感に正の影響を与えることが先行研究でも指摘されている (Carver & Scheier, 1990; Dunne, Wrosch, & Miller, 2011; Nesse, 2000; Wrosch, Scheier, Carver, & Schulz, 2003)。しかし、本研究の調査協力者は、夢や目標を諦めた経験がなく、諦めたことによる開放感や夢や目標を再設定する機会をもったこともない者も含まれているため、主観的幸福感が生起されるという経験をしておらず、負の情動を抱えた者が存在しているかもしれない。

時間的展望に関連して、大谷 (2004) や桜井・大谷 (1997) は、青年期における抑うつと幸福感の欠如と完璧主義 (self-oriented perfectionism) との関連性に関する研究において、失敗への懸念と行動への疑心の程度は、抑うつと幸福感の欠如に強い正の相関があることを指摘している。これらの研究は、懸念の程度は抑うつや幸福感の欠如を感じさせ、過去の失敗に対して強い後悔を抱かせる

Table 3 Factor structure of feeling at the time of abandonment of specific dreams

Factor: Item	Factors			h^2	Mean	SD
	F1	F2	F3			
F1: Negative feelings ($\alpha=.85$)						
16 Sadness	.78	-.01	.02	0.62	2.53	1.09
13 Anger	.77	-.05	-.01	0.59	2.29	1.12
10 Jealousy	.71	.06	-.11	0.42	2.07	1.08
14 Loneliness	.70	.16	-.14	0.40	2.49	1.05
08 Despair	.62	-.12	.09	0.48	1.87	1.00
03 Loss	.58	-.05	.15	0.47	2.91	0.96
F2: Positive feeling ($\alpha=.78$)						
15 Refreshment	-.11	.71	-.01	0.52	1.71	0.85
06 Ease	-.08	.69	.05	0.50	1.78	0.81
12 Happiness	-.02	.69	-.08	0.47	1.46	0.68
01 Relief	.06	.68	.04	0.48	2.07	0.93
02 Achievement	-.04	.50	.02	0.25	1.32	0.59
07 Hostility	.11	.46	-.03	0.22	2.57	1.01
09 Gratitude	.14	.45	.09	0.26	1.72	0.95
F3: Reflection ($\alpha=.76$)						
04 Self-reproach	-.01	.01	1.01	1.00	2.57	1.10
05 Regret	.31	-.11	.44	0.45	2.81	1.03
11 Guilty	.22	.24	.38	0.40	1.94	0.99
	F1	.40	.63		2.36	0.79
	F2		.20		1.80	0.55
	F3				2.43	0.85
Eigenvalues	4.66	3.28	1.02	Total	8.96	
Eigenvalue ratio (%)	29.11	20.51	6.39	Total	56.01	

Table 4 Factor structure of personal traits to be entrusted.

Factor: Items	Factors			h^2	Mean	SD
	F1	F2	F3			
F1: Cooperation ($\alpha=.82$)						
08 Clear	.88	-.06	-.03	0.72	3.20	0.90
09 Cooperative	.84	-.03	-.04	0.69	3.24	0.84
17 Friendly	.64	.12	-.02	0.51	3.15	0.87
07 Friendly with you	.56	-.12	.17	0.27	2.95	1.02
11 Humorous	.47	.16	.16	0.36	3.02	0.94
25 Polite	.42	.26	-.16	0.40	3.32	0.80
F2: Talent ($\alpha=.79$)						
21 More promising attributes than you	-.05	.73	.10	0.51	3.29	0.86
12 Talented	-.10	.73	-.01	0.46	3.32	0.86
22 Efficient	.05	.68	-.02	0.51	3.31	0.87
05 Intelligent	-.05	.62	.04	0.36	2.94	0.92
23 Spending stable life	.15	.45	.03	0.30	2.90	0.98
01 Industrious	.10	.44	-.12	0.27	3.65	0.65
F3: Anti-sociability ($\alpha=.68$)						
16 Rebellious	.05	-.01	.84	0.70	1.82	0.84
20 Egocentric	-.12	.05	.66	0.45	1.70	0.79
14 Having some problems in human relationships	.03	.02	.54	0.29	1.48	0.72
13 Having opportunities to dispute issues	.23	-.03	.42	0.22	2.16	0.97
	F1	.57	-.03		3.15	0.65
	F2		.00		3.23	0.60
	F3				1.79	0.59
Eigenvalues	4.78	2.22	1.58	Total	8.59	
Eigenvalue ratio (%)	29.87	13.90	9.88	Total	53.66	

Table 5 Factor structure of the ZTPI

Factor: Item	Factors					<i>h</i> ²	Mean	SD
	F1	F2	F3	F4	F5			
F1: Present-Hedonistic ($\alpha=.77$)								
26 It is important to put excitement in my life	.63	-.07	-.13	.00	.14	0.41	4.23	0.75
44 I often follow my heart more than my head.	.62	-.11	.04	-.14	-.13	0.41	3.39	0.91
08. I do things impulsively.	.60	.21	.08	-.09	-.05	0.43	3.77	1.05
42 I take risks to put excitement in my life.	.58	-.04	-.06	.16	.17	0.43	3.25	1.01
23 I make decisions on the spur of the moment.	.56	.21	-.01	-.21	-.23	0.47	3.63	0.93
33 Things rarely work out as I expected.	.55	-.06	-.04	.19	-.01	0.38	3.87	0.82
32 It is more important for me to enjoy life's journey than to focus only on the destination.	.43	-.08	.11	.18	.06	0.27	3.30	0.92
28 I feel that it's more important to enjoy what you're doing than to get work done on time.	.41	-.06	.20	.08	-.12	0.26	3.47	1.04
F2: Past-Negative ($\alpha=.80$)								
16 Painful past experiences keep being replayed in my mind.	-.13	.81	.07	.02	-.06	0.68	3.22	1.25
50 I think about the bad things that have happened to me in the past.	.05	.79	-.13	-.02	.04	0.62	3.63	1.12
35 It takes joy out of the process and flow of my activities, if I have to think about goals, outcomes, and products.	-.05	.77	-.05	-.02	.03	0.59	3.62	0.96
04 I often think of what I should have done differently in my life.	.04	.49	.02	.09	.08	0.27	4.00	1.01
F3: Future ($\alpha=.90$)								
31 Taking risks keeps my life from becoming boring.	.00	.03	.82	-.14	.19	0.65	2.42	0.95
03 Fate determines much in my life.	.12	-.07	.59	-.09	.24	0.36	2.82	0.98
53 Often luck pays off better than hard work.	-.07	-.01	.55	.22	-.07	0.39	2.86	1.00
14 Since whatever will be will be, it doesn't really matter what I do.	-.10	.03	.54	.08	-.30	0.43	2.43	1.02
39 It doesn't make sense to worry about the future, since there is nothing that I can do about it anyway.	.12	-.12	.42	-.08	-.15	0.22	2.57	0.99
F4: Past-Positive ($\alpha=.71$)								
07 It gives me pleasure to think about my past.	.00	.06	-.09	.76	-.09	0.53	3.41	1.01
15 I enjoy stories about how things used to be in the good old times.	-.09	-.04	.10	.66	-.17	0.43	2.97	1.12
20 Happy memories of good times spring readily to mind.	.24	-.03	-.12	.51	.02	0.37	3.50	1.03
02 Familiar childhood sights, sounds, smells often bring back a flood of wonderful memories.	.23	.19	.08	.36	.15	0.31	3.97	1.03
F5: Present-Fatalistic ($\alpha=.62$)								
24 I take each day as it is rather than try to plan it out. (\pm)	-.22	-.07	-.10	-.04	.61	0.47	2.53	0.98
40 I complete projects on time by making steady progress.	.05	-.03	.08	-.15	.58	0.30	2.87	1.12
10 When I want to achieve something, I set goals and consider specific means for reaching those goals.	.18	.02	-.07	-.02	.46	0.23	3.58	0.90
13 Meeting tomorrow's deadlines and doing other necessary work comes before tonight's play.	-.08	.12	.03	-.06	.45	0.22	3.59	1.01
06 I believe that a person's day should be planned ahead each morning	-.03	.12	.27	.14	.44	0.34	2.86	1.10
	F1	.07	.05	.20	-.09		3.61	0.58
	F2		.19	-.05	.02		3.62	0.86
	F3			.18	-.09		2.62	0.67
	F4				.25		3.46	0.74
	F5						3.09	0.65
	Eigenvalues	3.76	2.94	2.53	2.42	1.65	Total	13.31
	Eigenvalue ratio (%)	14.46	11.31	9.72	9.32	6.36	Total	51.18

ことを示唆している。本研究の調査協力者は完璧主義者ではない。けれども、彼らは過去の経験を再考したり解釈し直したりすることで、そのとき果たしてよい選択をしたのか、あるいは努力は適切であったのかどうかなど後悔と負の情動を抱いているようであった。

夢を諦めた後どのような人にもその夢を託すかについて、一般的に、彼らとその相手を選ぶとき、彼らは様々な事柄について考えるはずである。たとえば、その夢を実現しうる能力をもっているかどうか、その夢を実現するために努力し続けるかどうか、夢を託す主体の支援や助言を素直に聞き入れるかどうか。夢を託す主体は、託

す相手がその夢を実現してくれるかどうか、長期記憶に由来する託す相手の過去の行動や言動を想起し、将来の行動を出来る限り予測するであろうし、またそれを補強するために何らかの情報収集を行なうはずである。また、特定の自伝的記憶からその個人を同定すると言うよりは、むしろ、それまでの様々な経験に基づいて、この特定の夢を具体化するためにはこういう特性が必要であるといった、夢を実現させるための素養・資質に関する自分なりの一般化が図られていると予想される。したがって、誰に自分自身の夢を託すかを選択する際に、自伝的記憶ではなく自己の時間的展望の観点を取り入れたこと

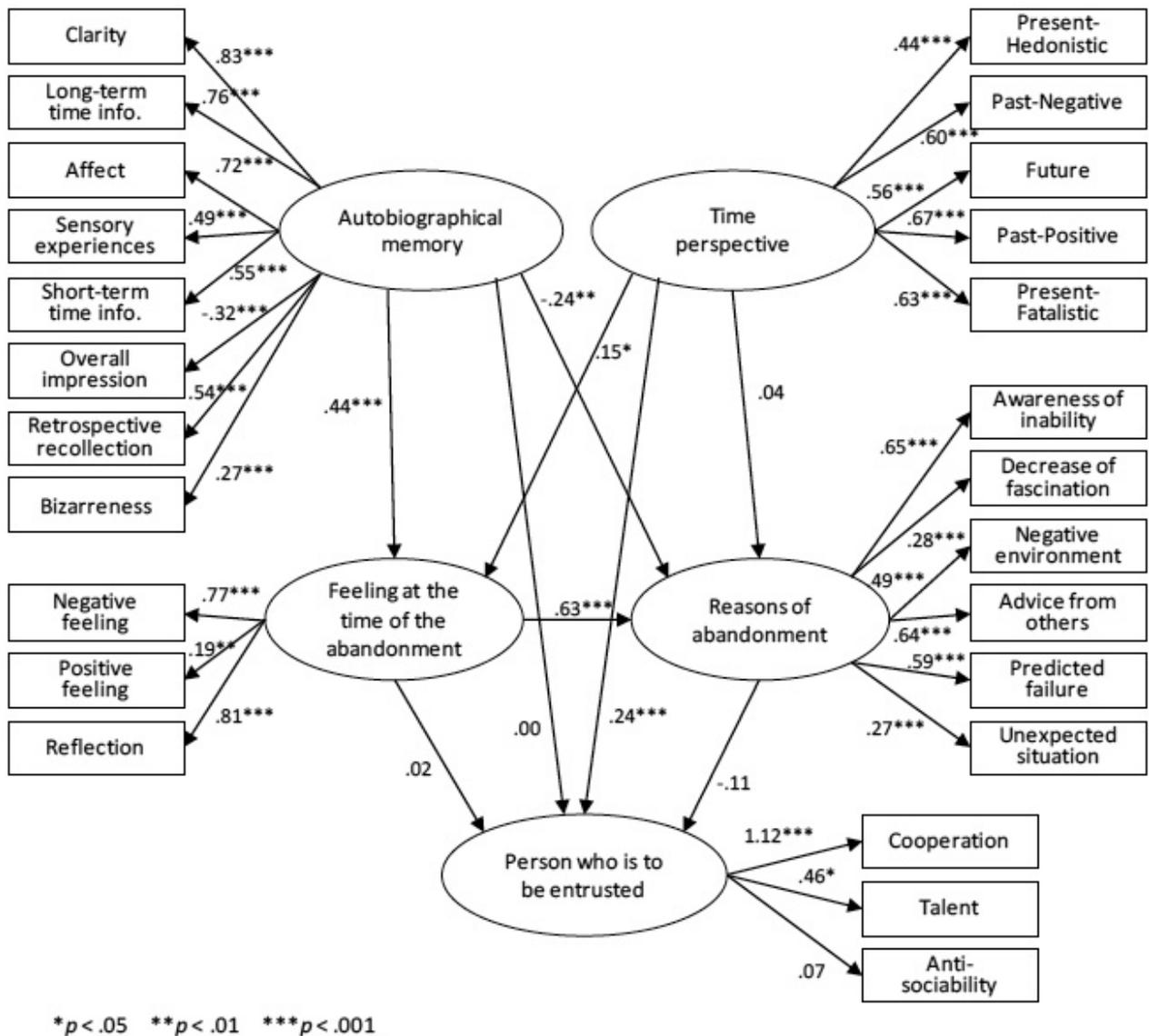


Figure 1 A proposed model of entrustment of dreams using the structural equation modeling. (注：この図は、Ishino & Shimizu (2012) にFigure 1 として掲載されている)

が推察される。

最後に、誰かに夢を託すことは、個人が夢を諦めたり放棄したりした結果というだけではない、という点について考察する。夢を託すことはむしろ、内的制約条件（個人の能力や努力など）と外的制約条件（社会的環境や経済状況など）を超える、夢の継続と拡張の心理的過程を意味していると考えられる。Wrosch et al. (2003) は、夢の実現を諦めることは夢に近づくという重要性の低下、縮小が必要であることを指摘している。夢の重要性が低下することは、人生における満足感・充足感にとって必ずしもその夢は必要でないとの再定義を求め (Sprangers

& Schwartz, 1999)、夢に近づくことができないということに内的適応を図る一助となっている (Brandtstadter & Renner, 1990)。確かにその視点は人生を豊かでおだやかに過ごすうえで重要である。しかし、それだけではなく、自分自身が果たせなかった夢を、自分の仲間や次世代が引き継ぎ、実現に向けて邁進する姿を見つめ支えることもまた、人生を豊かに過ごすために必要であろう。今後、さらに、高齢者や母親・父親を対象とした研究を行なうことで、夢を追うことや諦めること、また託すことといった一連の心理的過程とその心理的適応に関する研究が期待される。

引用文献

- Bluck, S. (2003). Autobiographical memory : Exploring its functions in everyday life. *Memory*, 11, 113-123.
- Boerner, K. (2004). Adaptation to disability among middle-aged and older adults : The role of assimilative and accommodative coping. *Journals of Gerontology : Series B : Psychological Sciences*, 59, 35-42.
- Boniwell, I., Osin, E., Linley, P. A., & Ivanchenko, G. V. (2010). A question of balance : Time perspective and well-being in British and Russian samples. *Journal of Positive Psychology*, 5, 24-40.
- Boniwell, I., & Zimbardo, P. G. (2004). Balancing one's time perspectives in pursuit of optimal functioning. In P. A. Linley, & S. Joseph (Eds.), *Positive psychology in practice*. Hoboken, NJ : Wiley, pp. 165-178.
- Brandtstadter, J., & Renner, G. (1990). Tenacious goal pursuit and flexible goal adjustment : Explication and age-related analysis of assimilative and accommodative strategies of coping. *Psychology and Aging*, 5, 58-67.
- Carver, C. S., & Scheier, M. F. (1990). Origins and functions of positive and negative affect : A control-process view. *Psychological Review*, 97, 19-35.
- De Volder, M. L., & Lens, W. (1982). Academic achievement and future time perspective as a cognitive-motivational concept. *Journal of Personality and Social Psychology*, 42, 566-571.
- Drake, L., Duncan, E., Sutherland, F., Abernethy, C., & Henry, C. (2008). Time perspective and correlates of wellbeing. *Time & Society*, 17, 47-61.
- Dunne, E., Wrosch, C., & Miller, G. E. (2011). Goal disengagement, functional disability, and depressive symptoms in old age. *Health Psychology*, 30, 763-770.
- Emmons, R. A. (1986). Personal strivings : An approach to personality and subjective well-being. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 1058-1068.
- 石野陽子・清水寛之 (2011). 大学生の過去経験の記憶と時間的展望 (1) - 大学生は実現不可能体験を他者へ伝え実現を願うのか - . 日本発達心理学会第22回大会 (東京学芸大学). 681
- Ishino, Y., & Shimizu, H. (2012). Entrusting dreams to someone else : The influence of personal experiences in autobiographical memory and perceiving the future time perspectives. *Journal of Psychological Research*, 54, 285-296.
- Maslow, A. H. (1943). A theory of human motivation. *Psychological Review*, 50, 370-396.
- Nesse, R. M. (2000). Is depression an adaptation? *Archives of General Psychiatry*, 136, 887-894.
- Nurmi, J.-E. (1992). Age differences in adult life goals, concerns, and their temporal extension : A life course approach to future-oriented motivation. *International Journal of Behavioral Development*, 15, 487-508.
- 大谷保和 (2004). 自己志向的完全主義の2側面と自己評価の抑うつ傾向の関連の検討 - 統制不可能事態への対処を媒介として - . 心理学研究, 75, 199-206.
- 桜井茂男・大谷佳子 (1997). “自己に求める完全主義”と抑うつ傾向および絶望感との関係. 心理学研究, 68, 179-186.
- 佐藤浩一・下島裕美・越智啓太 (2008). 自伝的記憶の心理学 北大路書房
- Shimizu, H., Anderson, D., & Takahashi, M. (2012). Autobiographical memories of specific social events for older and younger adults : Context dependency of the Memory Characteristics Questionnaire on recollection of 1970 and 2005 Japan World Expositions. *Japanese Psychological Research*, 54, 182-194.
- 清水寛之・石野陽子 (2011). 大学生の過去経験の記憶と時間的展望 (2) - 大学生が次世代へ伝えたいこととは何か - . 日本発達心理学会第22回大会 (東京学芸大学). 682
- 下島裕美・佐藤浩一・越智啓太 (2012). 日本版 Zimbardo Time Perspective Inventory (ZTPI) の因子構造の検討. パーソナリティ研究, 21, 74-83.
- Sprangers, M. A. G., & Schwartz, C. E. (1999). Integrating response shift into health-related quality of life research : A theoretical model. *Social Science & Medicine*, 48, 1507-1515.
- Takahashi, M., & Shimizu, H. (2007). Do you remember the day of your graduation ceremony from junior high school? : A factor structure of the Memory Characteristics Questionnaire. *Japanese Psychological Research*, 49, 275-281.
- Wrosch, C., Scheier, M. F., Carver, C. S., & Schulz, R. (2003). The importance of goal disengagement in adaptive self-regulation : When giving up is beneficial. *Self and Identity*, 2, 1-20.
- Zimbardo, P. G., & Boyd, J. N. (1999). Putting time in perspective : A valid, reliable individual-differences metric. *Journal of Personality and Social Psychology*, 77, 1271-1288.

付 記

本研究は、Ishino & Shimizu (2012) によって報告された研究調査データを別の視点から新たに検討し直したものである。また、その報告の中で、紙数制限の関係から割愛した調査結果も本論文に収めた。本研究の一部は、2013年3月に行われた日本発達心理学会第24回大会 (明治学院大学) で発表されている。

資料1 本研究調査で用いられた質問紙 (既存の尺度については省略する)

I. 夢を諦めた理由

どうして自分自身の夢を諦めたのですか。以下の質問

に自分があてはまると思うものに○をつけてください。
回答する際にはあまり深く考えず、自分に1番近いと思
うものに○をつけてください。

A. ない B. (原因として) あまりない C. (原
因として) 少しある D. ある

1. あなたは経済的な原因で夢を諦めた
2. あなたは家族の言動が原因で夢を諦めた
3. あなたは恋人の言動が原因で夢を諦めた
4. あなたは友人の言動が原因で夢を諦めた
5. あなたは先生の言動が原因で夢を諦めた
6. あなたはテレビや雑誌などの影響で夢を諦めた
7. あなたは誰かとの死別が原因で夢を諦めた
8. あなたは病気やケガが原因で夢を諦めた
9. あなたはいじめなど人間関係に問題が生じて夢を諦
めた
10. あなたは時間的制約(年齢、期間etc.)が原因で夢
を諦めた
11. あなたは他人と比べられて劣等感を感じて夢を諦
めた
12. あなたは自分がついてないという理由で夢を諦めた
13. あなたは生まれ育った環境、また生活している環境
の中では夢の実現が困難だと感じ夢を諦めた
14. あなたは持っていた夢に対して興味が薄れてきて夢
を諦めた
15. あなたは新たな夢ができたことでそれまでの夢を諦
めた
16. あなたは夢を実現していく中で自分の過ち・失敗を
責め夢を諦めた
17. あなたの持っている夢が失敗することを恐れて夢を
諦めた
18. あなたは持っている夢を実現するため必要な素質が
自分には無いと感じ夢を諦めた
19. あなたは努力をしたが結果が伴わなかったなど自分
の能力に限界を感じて夢を諦めた
20. あなたは自分と他人を比べて劣等感を感じて夢を諦
めた
21. あなたは自分のプライドを守るために夢を諦めた
22. あなたは複数の夢を持っていたが1つに絞った結果
夢を諦めた

II. 夢を諦めたときの情動

諦めた結果あなたはこういった心情になりましたか。
以下の質問のうち、自分のあてはまるものに○をつけて
ください。

A. 全く感じなかった B. あまり感じなかった
C. 少し感じた D. 非常に感じた

1. 解放感
2. 達成感
3. 喪失感
4. 自責
5. 後悔
6. 安心感
7. 開き直り
8. 絶望
9. 感謝
10. 嫉妬
11. 罪悪感
12. 幸福感
13. 腹立たしさ
14. 淋しさ
15. すがすがしさ

16. 悲しさ

III. 託す相手の特徴

今まで自分が夢を叶えられなかったことを思い出し
て、以下の質問に答えてください。

(a) 叶えられなかった夢はどうしましたか。

自分ではない他者にたくした・・・(1)
何もせずにそのまま・・・(2)

(1)「自分ではない他者にたくした」と答えた人は、以
下の質問に答えてください。

(2)「何もせずにそのまま」と答えた人は、次のページ
に進んでください。

(1)と答えた人は、以下の質問に答えてください。

①それはいつ頃ですか。

②あなたと相手はどんな関係でしたか。

(例) 親、兄または姉、弟または妹、先輩、後輩、自
分と同じ夢を持っている人など

③その相手はどのような人でしたか。当てはまるものに
○をしてください。

A. 当てはまる B. どちらかといえば当てはまる
C. どちらかといえば当てはまらない D. 当てはま
らない

1. 努力家である
2. 同じ目標を持っている
3. 思いやりがある
4. 消極的である
5. 頭が良い
6. その人なりの夢を持っている
7. 自分と仲が良い
8. 明るい
9. 協調性がある
10. こだわりがある
11. ユーモアがある
12. 才能がある
13. 自分と言い争いをしたことがある
14. 交友関係に問題がある
15. 健康である
16. 反抗的である
17. 人当たりが良い
18. 信頼できる
19. リーダーシップがある
20. 自己中心的である
21. 自分より将来性がある
22. 要領が良い
23. 規則正しい生活を送っている
24. 自分と同じ趣味など、共通点が多い
25. 礼儀正しい

(2)と答えた人は、以下の質問に答えてください。

①その夢はいつ頃諦めましたか。

②もし何らかの夢を託すとしたら、どのような相手に託
したいと思いますか。当てはまるものに○をつけてくだ
さい。

(以下、III- (1) -③を添付使用)